

[道 徳]

自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める子の育成

－ 疑似体験「役割演技」を通した話合い活動から－

樋口 智哉*

1 主題設定の理由

私たち教師は、道徳教育を通して、道徳性を育成していかなければならない。また、道徳の時間においては道徳的实践を高めていけるような授業を行わなくてはならない。道徳的实践力とは、「人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質」を意味している。その力を育成するために、より具体化したものが、文部科学省の「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別な教科 道徳編」で次のように示されている。

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をそだてる。

この目標達成に向けて、「平成28年7月22日道徳教育にかかる評価等の在り方に関する専門家会議」において、道徳科における質の高い多様な指導方法として、以下の3つの指導方法が例示された。

- 質の高い多様な指導方法
- ①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
 - ②問題解決的な学習
 - ③道徳的行為に関する体験的な学習

その中の「道徳的行為に関する体験的な学習」は、「役割演技などの体験的な学習により、実際の問題場面について実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる指導方法」であり、「問題場面を実際に体験してみると、また、それに対して自分ならどう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。」と説明している。

これまでの自身の道徳授業を振り返ると、児童が教材を通してねらいとする価値について理解しているように見えても、教材から離れて自分を振り返る場面になると、教材から考えた道徳的価値が自分の生活や生き方について考えるとこまで及んでいないと感ずることがあった。以下は、今年6月に行った道徳の授業における児童アンケートの結果である。

道徳の授業で学んだことを生活に生かすことができたか	解答割合 (%)
1 とてもそう思う	10%
2 そう思う	24%
3 あまり思わない	47%
4 思わない	19%

*魚沼市立堀之内小学校

毎時間の道徳の学習で行っている振り返りでは、「これからは自分も〇〇のようにしていきたい」「(この話と) 同じようなことがあったら～したい」といった記述が大半であった。しかし実際は、その場でこれからの自分の在り方について考えることができている、生活に生かそうとするところまでは至っていないという結果であった。これは、児童が道徳的価値について考えるとき、話し合うことを通して「自分ならどうする」と教材の人物と自分を重ねて考えたり、自らの経験を振り返りながら考えたり、自他の考えを比較し自らの価値観を捉え直したりするなど、自分との関わりで考えさせる指導の工夫が足りないことが考えられる。

自己の生き方についての考えを深めるためには、これまでの生活を振り返り、ねらいとする価値へ向かうような働きかけが重要である。私は「実感を伴って理解する」ことで、問題を自分事として捉え、生活で実践していこうとする意欲が高まるのではないかと考える。「道徳的行為に関する体験的な学習」の中でも「役割演技」を中心にした実践をしたいという思いに至った。

本研究では、役割演技を通した話し合いを行うことで、自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める児童を育成することにつながると考え、本テーマを設定した。

2 研究の目的

本研究では、役割演技を取り入れた話し合いが道徳的価値を深めたり、自分との関わりで考え意識させたりする上で有効な手立てであったかを検証する。

3 研究内容与方法

(1) 研究の内容

① 役割演技を取り入れることができる教材の検討

1学期に行う道徳科授業の教材を分析し、役割演技に適した教材について検討する。

② 役割演技から考えたことを話し合う場の設定

考えを交流する場として話し合い活動を行う。話し合い活動は、児童相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳の時間においても重要な役割を果たす。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的や学年、学級の実態に応じて効果的に話し合いが行われるように工夫する。

(2) 研究の方法

① 教材の分析

道徳科授業で役割演技を用いることに適していると判断した教材の内容、登場人物の役割、役割演技で演じる場面設定を明らかにする。

② 児童の考えの変容の見取り

授業記録と道徳ワークシートの記述、児童アンケート調査をもとに、学級集団の視点と抽出児童から考察し、検証を行う。

4 実践の概要

(1) 役割演技を取り入れた道徳授業

道徳授業1学期に行った道徳科授業は、表1の通りである。12時間の内、役割演技を行ったのは、4時間である。役割演技を取り入れた教材に共通していることは、主人公とその相手役が存在していることである。主人公と相手役が存在している、児童が登場人物に自我関与しづらいと思われる教材は、役割演技を実施しなかった。(表1では、「場面の設定について」で「なし」と表記)

表1 1学期に行った道徳授業（『みんなの道徳4年』学研）

教材名	内容	資料の形態	登場人物	場面の設定について
レスリングの女王吉田沙保里	A-(5) 希望と勇気, 努力と強い意志	読み物資料	吉田選手 お父さん お母さん	なし
お母さんの請求書	C-(14) 家族愛, 家庭生活の充実	読み物資料	たかし お母さん	なし
電話のあらしがやってきた	B-(8) 礼儀	読み物資料	複数	なし
アメリカとの出会い〜ジョン万次郎のぼうけん〜	C-(17) 国際理解, 国際親善	読み物資料	複数	なし
たな田が変身	C-(16) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	場面ごとのイラスト資料 会話文	ほく 棚田を守っている人	なし
花をさかせた水がめの話	A-(4) 個性の伸長	読み物資料	男 水がめ	男と水がめ役を決め, 水がめ役に男役がはげます場面を設定。
雨のバス停留所で	C-(11) 公正, 公平, 社会正義	読み物資料	よし子 お母さん	なし
おばちゃん, がんばれ	D-(18) 生命の尊さ	読み物資料	複数	なし
心の信号機	B-(6) 親切, 思いやり	読み物資料	ほく 男の人	様々な障がいを抱えている人を想定し, 声をかける場面を設定。
泣いた赤おに	B-(9) 友情, 信頼	読み物資料	赤おに 青おに 村人	赤おに役と青おに役を決め, 物語後の赤おにが青おにに声をかける場面を設定。
友だちが泣いている	A-(1) 善悪の判断, 自立, 自由と責任	場面ごとのイラスト資料 会話文	複数	クラスの役を決め, 友だちの役の人にアドバイスをする場面を設定。

(2) 役割演技を通じた話合いの実際

① 主題名

正しいことは自信をもって A-(1), 善悪の判断, 自立, 自由と責任

② 資料名

「友だちが泣いている」(新・みんなの道徳4年 学研)

③ ねらいと価値

学校におけるいじめは, 被害者の児童の心を深く傷つけ, その後の将来にも, 大きな影響を及ぼす重大な社会問題である。「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を一人一人の児童生徒に徹底させなければならない。また, いじめをはやし立てたり, 傍観したりする行為もいじめの行為も同様に許されないという認識をもたねばならない。正しいと思うことを主体的に判断し, 自信をもって実行していこうとする態度を育てる。

④ 資料について

ある学級において起こってしまったいじめにつながりかねない場面を例に, 7名のクラスメイトの様々な意見を示し, いじめはどうしたらなくなるのかを考える。

⑤ 展開の構想

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	●指導の留意点 ◎評価
5分	○自分のクラスでいじめにつながる発言や言動について想起する。 発問1 クラスの友達に言われて嫌だったこと。嫌な思いをしている友達を見たことがありますか。 ・何にもしてないのにたたかれて悲しかった。 ・遊びに「入れて」って言っているのに、入れてもらえない友達がいるかわいそうだった。 クラスで嫌な思いをしている人がいた時、どうすれいいのだろう。	●自分の体験を思い出せるように写真を提示する。
35分	○黒板に、あるクラスの一場面を提示し、登場人物の意見が正しいか正しくないかでグループ分けを行う。 発問2 誰がいていることが正しいでしょう。また、正しくないでしょう。 ・泣いているのに笑われたらもっと悲しくなる。 ・だまって見ている人も正しくないと思う。 ○「正しくない」グループにアドバイスをやる役割演技を行う。 発問3 「正しくない」グループの人にアドバイスをしてみましょう。 ・Aさんは泣いているのだから、笑っているのはおかしいよ。真剣に考えようよ。 ・見ているだけじゃ変わらないよ。先生を呼びにいくといいよ。 ○役割演技について話し合う。 発問4 今の役割演技を見てどう思いましたか。 ・今のアドバイスの言い方は優しくてよかった。友達も納得すると思う。 ・自分も怖くて言えないことがあるから、先生を呼びに行くのはいいと思う。	●1人でも正しくないという意見の児童がいた場合は、「正しくない」グループに入れる。 ●役割演技を行う場面の状況を共通理解するために、場所や出来事を押さえ、その後は自由に演じてよいことを伝える。 ●もし自分だったら～という視点で考えさせる。
5分	○今までの自分を振り返りながら、ワークシートに振り返りを書く。 発問5 今日の学習を通して、クラスで嫌な思いをしている人に対してどう思いましたか。また、これからどうしていきたいですか。 ・自分もたまに嫌なことをいってしまうことがあるから、気を付けたい。 ・見ているだけだったけど、これからは先生を読んだり、注意したりできるようにしたい。	◎正しいと思ったことを自信をもって実行することの大切さについて考えることができる。(ワークシート)

⑥ 授業の実際

ア 場面で見られた児童の反応

「正しくない」ことを言っているグループには、4人の意見が選ばれた。それぞれの意見ごとに役割演技を行い、その都度、発問4を行った。以下は、「主人公がみんなにからかわれている姿を見ていたが、怖くて何もできなかった」という意見に対し、「自分も怖いから一緒に勇気を出してだめだよって言おうよ」というアドバイスを送る役割演技後の児童の話合いの一部である。なお、「自己を見つめ、新たな考えを見つけている」発言には下線を引くこととする。

〈役割演技の様子〉

T：教師 C1：友達役 C2：アドバイス役

C1：Aさんがみんなにからかわれているのを見たよ。かわいそうだった。でも自分がせめられるのが怖くて何もできなかったよ。
 C2：私も1人だと怖いから気持ちは分かるよ。でも2人なら大丈夫だから、勇気を出して一緒に言おうよ。
 C1：なんか力がわいてきた。一緒なら大丈夫かも。
 C2：2人で頑張ろうね
 C1：うん。

〈役割演技後の話合いの様子〉

T：教師 C1～C5：児童

T：今の演技はどうでしたか。
 C1：いいと思う。1人だと自分も勇気が出ないけど、2人なら言えると思う。
 C2：それなら、もっと人数を増やして言えば言いやすくなるね。
 C3：でもそれだと今度はBさん（加害者）へのいじめになっちゃうかもしれないよ。
 C2：どうして？
 C3：みんなで強くいったらBさんが傷ついてしまうよ。それはいじめだよ。
 C2：確かに。前にみんなに「だめだよ」って言われてすごく悲しかった。
 C1：優しく言えばいいんじゃない。
 C3：優しく言ってもみんなに言われたら悲しくなると思う。1人でも勇気を出して言うしかない。
 C4：そうしたら先生に言えばいいんじゃないかな。いじめは分かったら先生に早く言った方がいいと思う。
 C1：いいね。自分も言えないと思ったけど、それなら1人でもできそう。
 C3：それなら簡単にできる。先生が近くにいなかったらどうする。
 C2：2人なら、1人がBさんに優しく言っている間に、もう1人が先生を呼んでくることができるね。
 C5：私もなかなか怖くて「だめだよ」って言えないけど、先生を呼ぶのはできると思う。

児童の発言の中から、「自己を見つめている」と思われる箇所を取り出すと、役割演技について、5名の児童の内、全員が、自分の経験と重ねて考えて発言している様子が見られた。しかし、全体の発言だけでは、限られた児童による見取りしかできなかつたので、見取りのために話す機会を増やす必要がある。

イ 抽出児童について（A児・B児・C児のワークシートの記述から）

抽出する児童はこれまでの道徳授業における観察で、あまり自分の考えを表出しない児童や、自分に振り返って考える記述の乏しい児童に絞り、授業前後の考え方の変容を見取った。授業における児童の発言とワークシートの振り返りから「自己を見つめる」に関連して記述してある内容を一部抜粋し、表2にまとめた。

表2 抽出児童の考え方の変容の様子

	抽出児童A児	抽出児童B児	抽出児童C児
児童の様子	「自分だったらどうする」と考えることに苦しさを感じており、道徳授業では、他の児童の考えを真似て発言したり、ワークシートに記述したりすることが多い。	責任感が強く、自分の意見を主張できるが、他者の意見を受け入れず、言い争いになってしまうことがある。	正義感は強いが、あまり深く考えずに関わろうとするので、周りから非難されてしまうことがある。
役割演技を取り入れた話合い前の話合いからの発言から	AさんとBさんの問題だから、余計なことはしない方がいい。	BさんはAさんをいじめたんだから、Bさんが謝るまで「だめだよ」と言い続ける。	意見の言える人が、AさんのしたことをBさんに言って謝ってもらう。
振り返りのワークシートの記述から	自分はいじめを見ても怖くて「だめだよ」と言えないかもしれないけど、言えなくても先生に言ったり、仲間を見つけて言えばいいことが分かった。	今まで自分は、友だちに強く言いすぎてしまうことがあったから、これからは優しい言い方で「だめだよ」と言えるようにしたい。	1人で意見を言う勇気が出ない人でも、2人なら言えることが分かった。いじめを止めるには色々な方法があることを知った。

A児のワークシートをみると、話合い前の発言では、課題に対して、「自分は関わりたくない」という思いが表れていた。役割演技を取り入れた話合い後は、自分の経験に照らして考え、自己を見つめながら、正しくないことを見過ぎさない役割を自分で導き出しているように捉えられる。

次にB児をみると、話合い前の発言では、「いじめはよくない」という立場にありながらも、自身の強すぎる言い方に対して「自分は悪くない」と認められずにいた。役割演技を取り入れた話合い後は、これまでの言い方を反省し、正しくないと考えられることをした相手に、制止が受け入れられるようにしていこうとする意欲をもっていることが分かる。

最後にC児をみると、話し合い前の発言では、課題に対して、「誰にでも意見の言える強い人が解決するべき」という思いが表れていた。役割演技後の話し合いの中で、いじめは色々な方法で解決できることに気づき、新たな考えを導き出すことができたと思えられる。

ウ 児童アンケートから

上記に示したものと同様の、道徳授業の児童アンケートを1学期末（8月）に行った。結果は以下の通りである。

道徳の授業で学んだことを生活に生かすことができたか	解答割合（％）
1 とてもそう思う	35%
2 そう思う	45%
3 あまり思わない	17%
4 思わない	3%

6月に実施した結果と比較して、1と2の肯定的評価の児童が46%増加した。この結果から、役割演技を取り入れた学習が、一定の効果を上げたと思えることができる。

5 成果と課題

(1) 成果

道徳授業に役割演技を取り入れることで、児童が実感を伴って道徳的価値について考えることができた。自分の経験を振り返る発言が見られ、自己をみつめることができたと思える。

また、役割演技後は、話し合いに広がりや深まりが見られた。抽出児童が他児童の考えを受け入れ、新しい方法で実践していこうという意欲をもつことができたことから、これからの生き方について考えることができた。児童アンケートの結果では、道徳の授業で学んだことを生かすことができた児童が大きく増加した。この結果から、役割演技を取り入れた話し合いが道徳的価値を深めたり、自分との関わりで考え意識させたりする上で一定の効果を上げたといえる。

(2) 課題

役割演技を取り入れた教材に限られているということから、役割演技を取り入れにくい教材でも児童が実感を伴って道徳的価値について考えられるよう、さらなる手立てが必要である。また、話し合いの場面で考えを交流する際、自分の経験を基にした考えやこれからの自分について話し合わせるためには、「自分はどうか」「今の自分でもできることは何か」など話し合いの視点を教師側が支援していくことが重要になることが分かった。

6 参考文献・引用文献

「小学校学習指導要領解説 特別な教科 道徳編」, 文部科学省, 2017年

「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」, 『特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）』, 文部科学省, 2016年

西野真由美, 鈴木明雄, 貝塚茂樹 『考え, 議論する道徳の指導法と評価』, 教育出版, 2017年

早川裕隆 『体験的な学習 役割演技でつくる道徳授業』, 明治図書, 2017年

林 誠仁 「小学校入門期における道徳科授業の評価について～役割演技における監督役割に着目して～」 『教育実践研究第30集』, 2020年